

# 【漁況】

## [マアジ]

### 1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンまで増加し、30万トン台を維持しながら、平成9年は32万3千トン、平成10年は31万1千トンでした。しかし、平成11年には大きく減少し21万1千トンとなり、平成13年は21万2千トンでした。

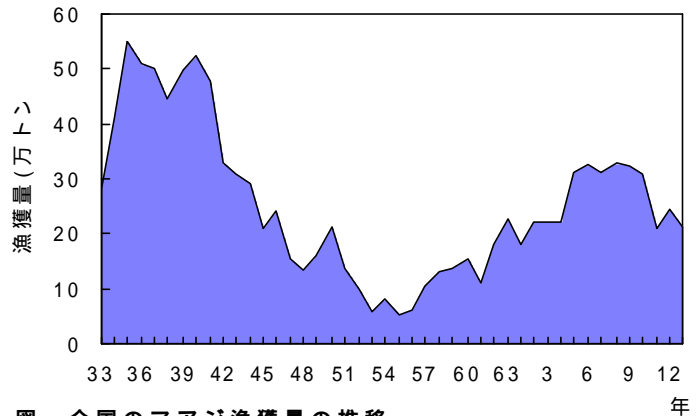


図 全国のマアジ漁獲量の推移

### 2. 平成15年1～3月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、野間池沖(2月)に、薩南海域では、佐多沖(1～3月)、内之浦沖(1～2月)、に漁場が形成されました。

4港計では、豆アジ(平成14年生まれ)主体に844トンの水揚げで、1月～2月は前年・平年並みに推移しましたが、3月は低調に推移し、前年の74%及び平年の58%でした。

### 3. 平成15年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は、豆・小アジ(1歳魚・平成14年生まれ)で、来遊量は前年を下回り、平年並みでしょう。

(根 拠)

主漁獲対象となる平成14年生まれ群の来遊状況は、近年では好調であった平成13年生まれ群よりやや低いと考えられます。

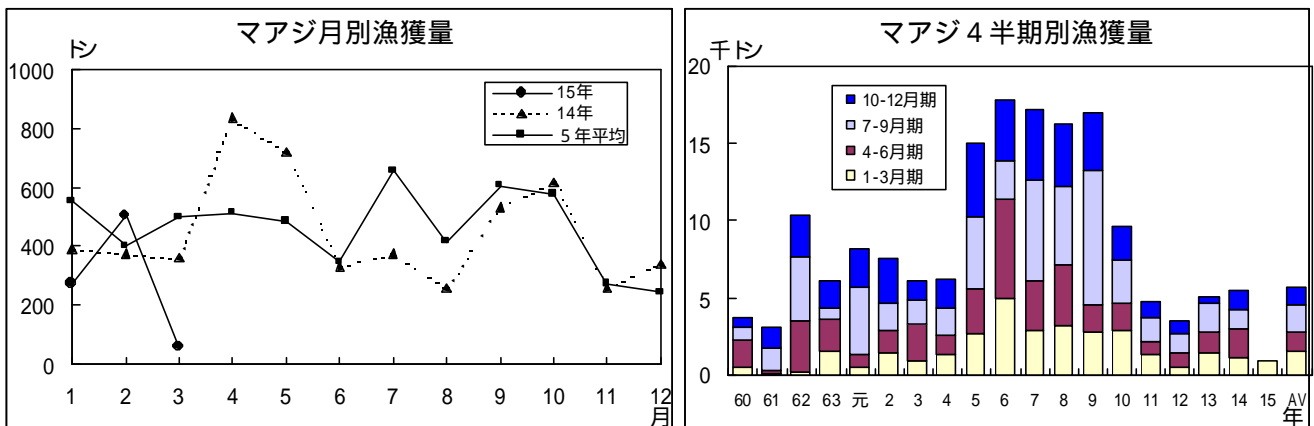


図 マアジ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成10～14年）の平均値，平成15年3月末までの水揚げ量を使用。

## [ サバ類 ]

### 1. 漁獲量の動向（農林統計）

サバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トンにピークにマサバ資源水準の低下により年々減少し、昭和57年には72万トンとなりました。その後は、ゴマサバの増加により大幅な漁獲量の減少は見られませんでした。昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため、サバ類の漁獲量は大きく減少し、平成3年には26万トンとなりました。その後、増加傾向に転じ平成9年は84万9千トンとなりましたが、再び減少傾向となり平成13年は37万1千トンでした。

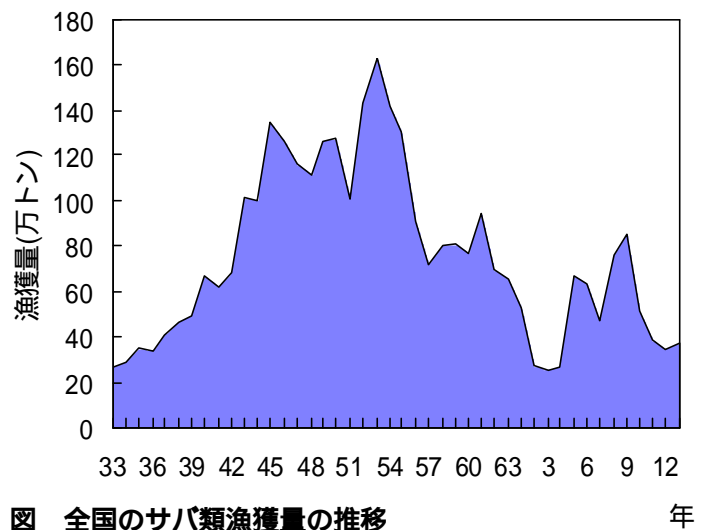


図 全国のサバ類漁獲量の推移

### 2. 平成15年1～3月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、マサバが串木野沖～野間池沖(2～3月)で、薩南海域では、ゴマサバが種子島東(1～3月)、佐多沖(3月)で漁場が形成されました。薩南海域では、前期までは低調に推移していましたが、1月下旬にゴマサバ大が九州東岸を南下来遊したため、漁況はやや好転しました。

4港計では、1～3月は大サバ(3才魚以上と考えられる)主体に1,337トンの水揚げで、前年の131%及び平年の56%でした。

### 3. 平成15年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は小サバ(1歳魚・平成14年生まれ)及び大サバ(3歳魚以上)主体で、来遊量は前年・平年を上回るでしょう。

(根拠)

主漁獲対象となるゴマサバ1才魚は、宮崎県では好調に推移しています。現在、宮崎県東沖では黒潮が蛇行し、沿岸域の水温が低いため、本県海域への南下回遊が続いています。今後も現在の海況が持続するため、漁況は好調に推移するものと考えられます。

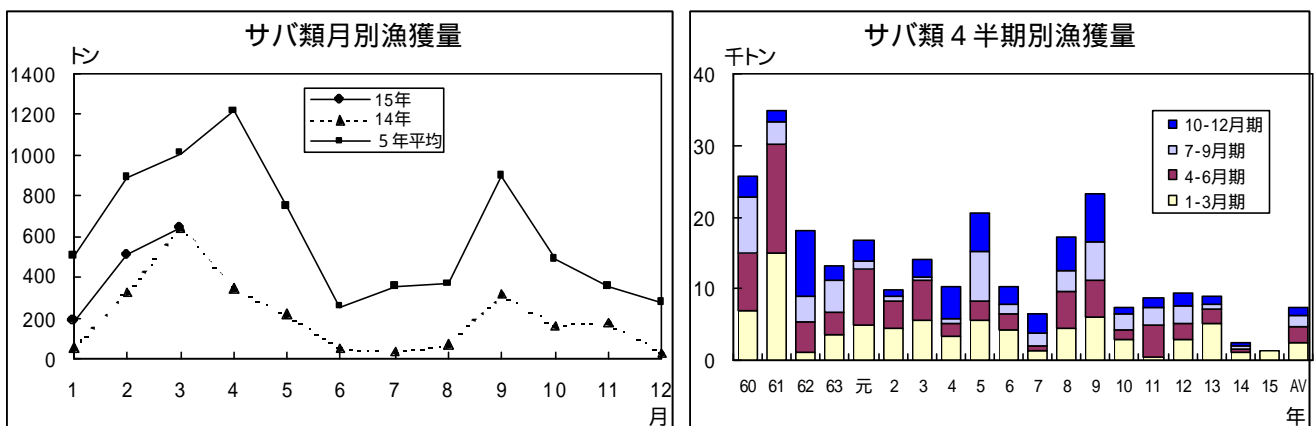


図 サバ類漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成10～14年)の平均値、平成15年3月末までの水揚げ量を使用。

# [マイワシ]

## 1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。しかし、平成元年から三陸沖を中心に漁獲量が減少し始め、その後もマイワシの若齢魚の減少等により、全国的に漁獲量は減少を続け、平成7年には66万トンとなり、平成10年は16万7千トンとなりました。平成11年は35万1千トン、平成13年は17万9千トンでした。

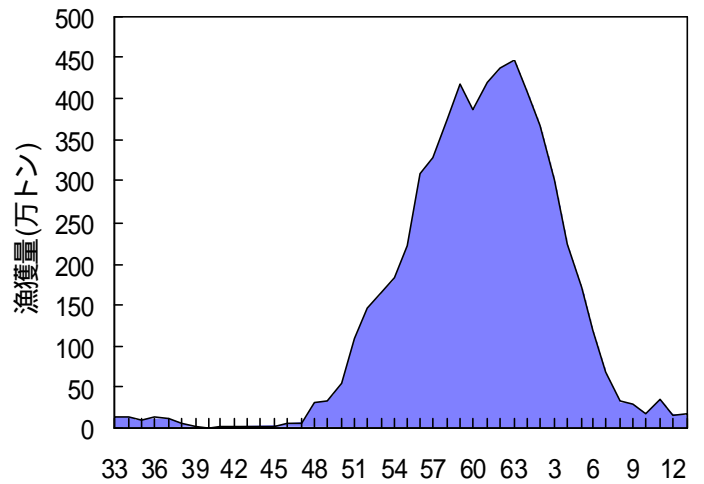


図 全国のマイワシ漁獲量の推移 年

## 2. 平成15年1～3月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域の野間池沖（3月）で漁獲がありました。

4港計では、3.3トンの水揚げで前年の767%でした。

## 3. 平成15年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は小羽イワシ(0歳魚・平成15年生まれ)で、来遊量は低調であった前年並みでしょう。

（根拠）

マイワシの資源状態は低水準にあり、前期の漁獲状況や平成15年3月の卵稚仔調査結果の状況から資源回復の兆候はみられませんでした。

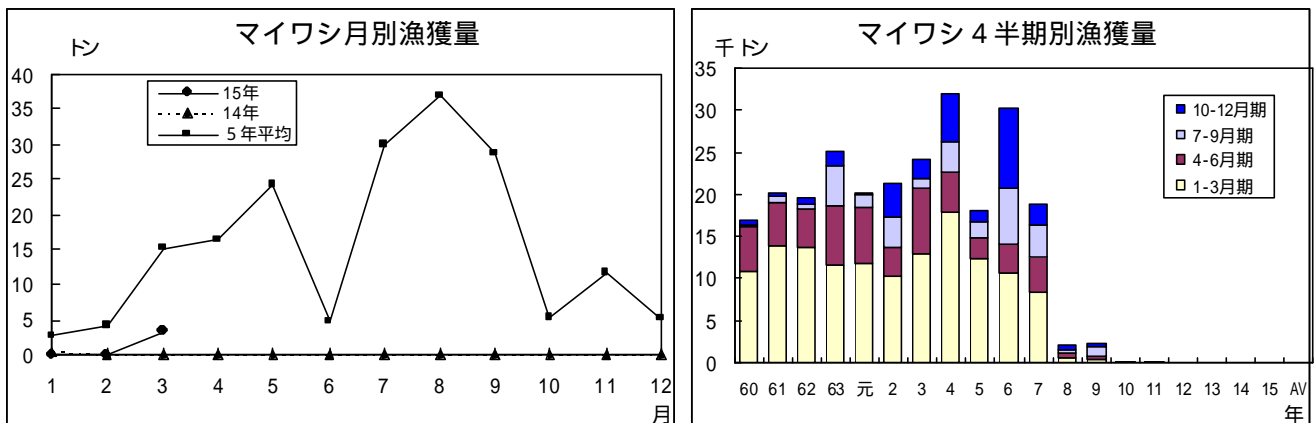


図 マイワシ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成10～14年）の平均値，平成15年3月末までの水揚量を使用。

# [ ウルメイワシ ]

## 1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代後半から40年代前半にかけて3万トン前後で推移していましたが、昭和46年から54年まで5万トン前後で推移しました。昭和55年以降、漁獲量は減少し昭和60年には3万トンとなりましたが、その後増減を繰り返しながら、増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとなりました。その後減少傾向に転じ、平成9年は5万5千トン、平成11年は2万9千トン、平成13年は3万1千トンでした。

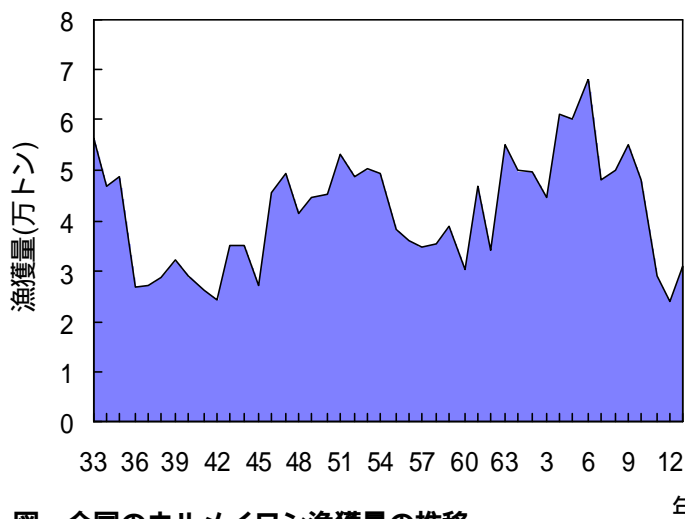


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

## 2. 平成15年1～3月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甌島周辺(2月)に、薩南海域では、佐多沖(1～2月)で漁獲がありました。

4港計では、114トンの水揚げで、2月は前年を上回りましたが全般的に低調に推移しました。前年の82%及び平年の91%でした。

## 3. 平成15年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は小羽ウルメ(0歳魚・平成15年生まれ)及び中羽ウルメ(1歳魚・平成14年生まれ)で、来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

(根 拠)

前期の漁況経過から1才魚は前年を下回るものと考えられます。

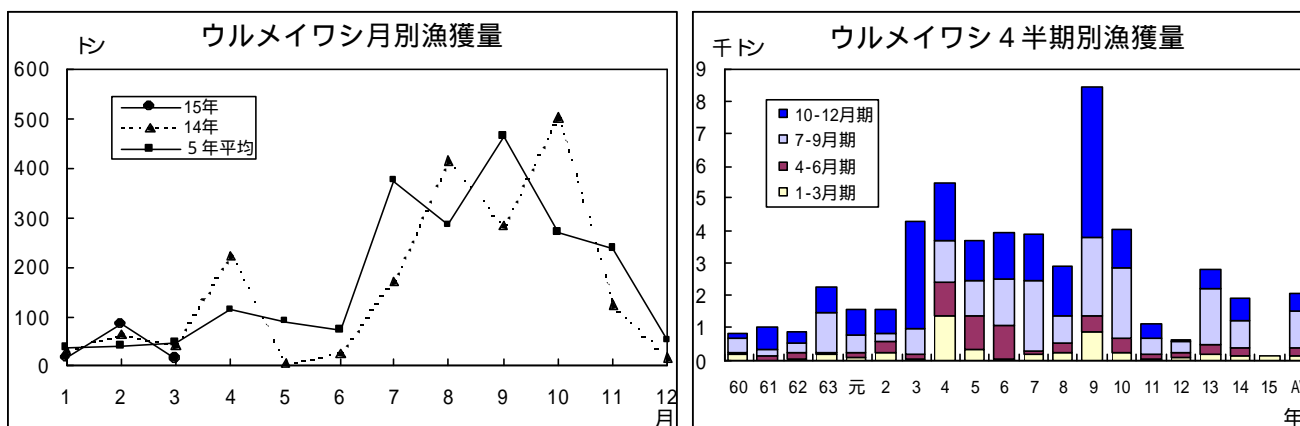


図 ウルメイワシ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成10～14年）の平均値，平成15年3月末までの水揚量を使用。

# [ カタクチイワシ ]

## 1. 漁獲量の動向（農林統計）

カタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。その後、徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが、昭和62年には再び14万トンまで減少しました。昭和63年以降は大きく増減を繰り返し平成9年は23万3千トン、平成10年は47万トン、平成11年は過去最高の48万トンとなりました。平成13年は30万1千トンでした。

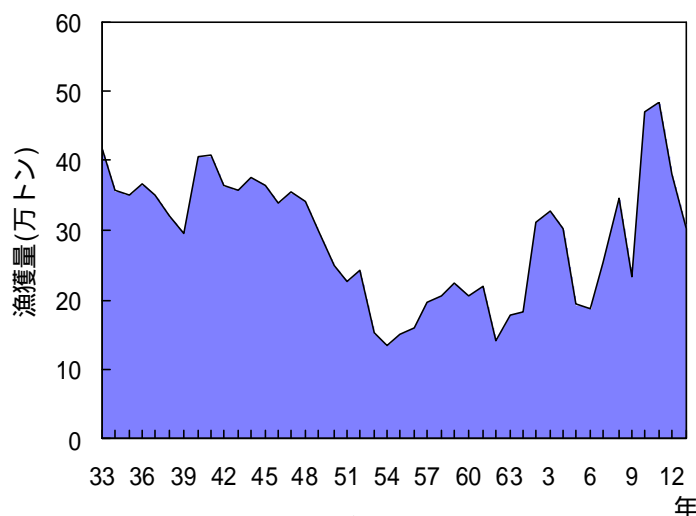


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

## 2. 平成15年1～3月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、長島沖(3月)で、薩南海域では、枕崎沖(3月)で漁獲がありました。4港計では、71トンの水揚げで、前年の56%及び平年の17%でした。

## 3. 平成15年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は大羽カタクチ(1歳魚・平成14年生まれ)及び小羽カタクチ(0歳魚・平成15年生まれ)で、来遊量は前年・平年を上回るでしょう。

(根拠)

平成13～14年の漁獲量は低調に推移していましたが、前期の九州西岸や九州東岸では大羽の来遊は前年に比べ好調で、特に宮崎県沖合では好調に推移しています。今後は、現在の宮崎県東沖での黒潮の蛇行や沿岸域の低水温がしばらく持続するため、大羽カタクチが本県海域へ南下回遊し、漁況が好調に推移するものと考えられます。

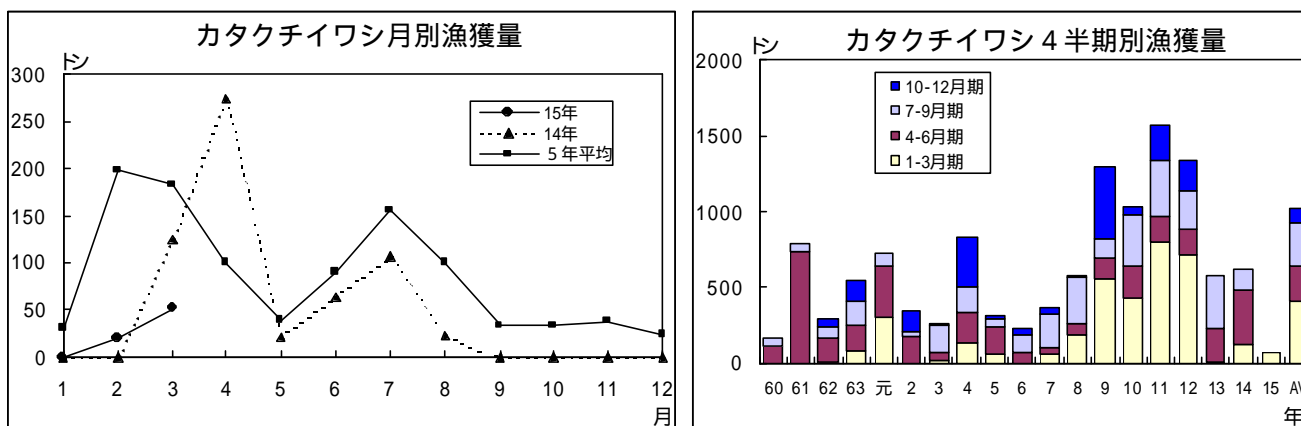


図 カタクチイワシ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成10～14年）の平均値，平成15年3月末までの水揚げ量を使用。

## [ その他の魚種 ]

### ムロアジ類 ( 4 港計 )

#### 1. 経年変化及び平成15年1～3月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トンピークに減少傾向を示し、平成12年は、昭和58年以降最低の1,819トンとなりました。平成13年以降は増加し、平成13年は3,224トン、平成14年は4,418トンとなりました。

主に薩南海域で漁獲があり、1～3月期全体では1,174トンの水揚げで前年の149%及び平年の155%でした。

#### 2. 平成15年4～6月期の見とおし

来遊量は前年・平年を上回るでしょう。

### オアカムロ ( 4 港計 )

#### 1. 経年変化及び平成15年1～3月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トンピークに減少し、平成6年には1,823トンとなりましたが、その後は増加傾向となり、平成10年は3,413トンでした。その後減少傾向となり、平成12年は2,483トン、平成13年は2,337トン、平成14年は1,885トンとなりました。

主に薩南海域で漁獲があり、1～3月期全体では419トンの水揚げで前年の105%及び平年の49%でした。

#### 2. 平成15年4～6月期の見とおし

来遊量は前年並みで、平年を下回るでしょう。

### マルアジ ( アオアジ ) ( 4 港計 )

#### 1. 経年変化及び平成15年1～3月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は、平成2年以降低調に推移しましたが、平成7年には1,430トンに増加しましたが、再び減少し平成11年は639トンでした。平成12年以降は増加傾向を示し、平成12年は1,867トン、平成13年は1,603トン、平成14年は2,712トンでした。

主に北薩海域で漁獲があり、1～3月期全体では803トンの水揚げで前年の70%及び平年の221%でした。

#### 2. 平成15年4～6月期の見とおし

来遊量は前年を下回り、平年を上回るでしょう。

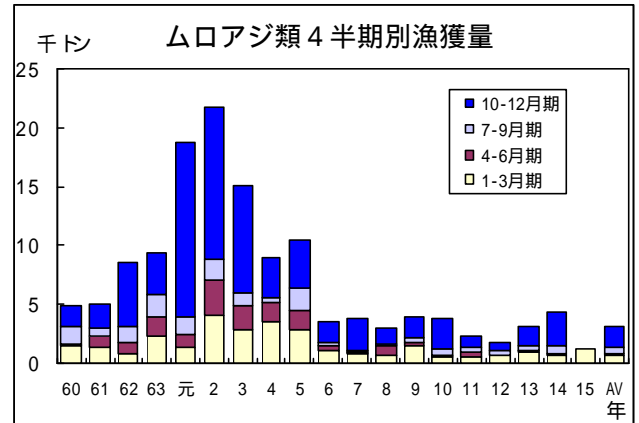
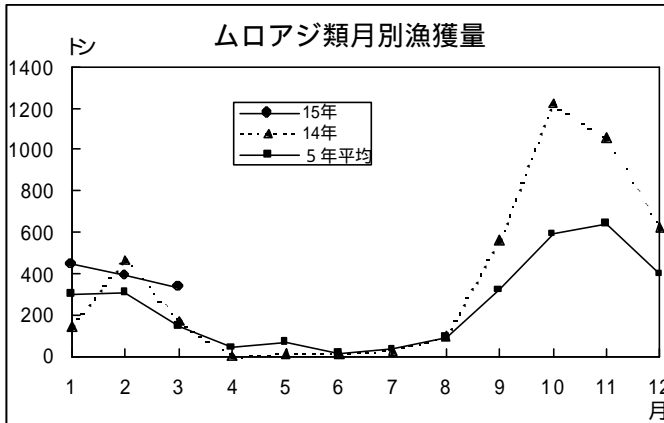


図 ムロアジ類漁獲量変化(4港計)

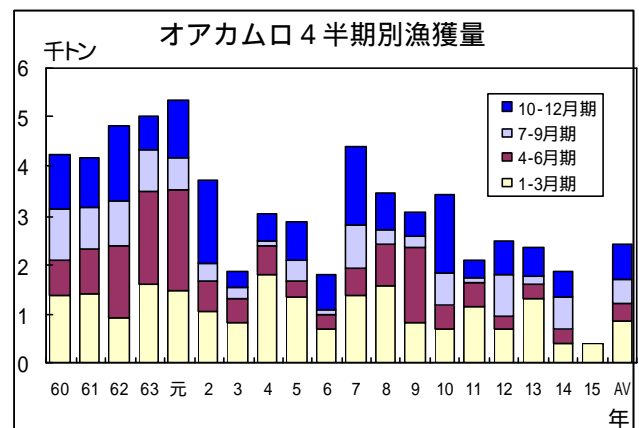
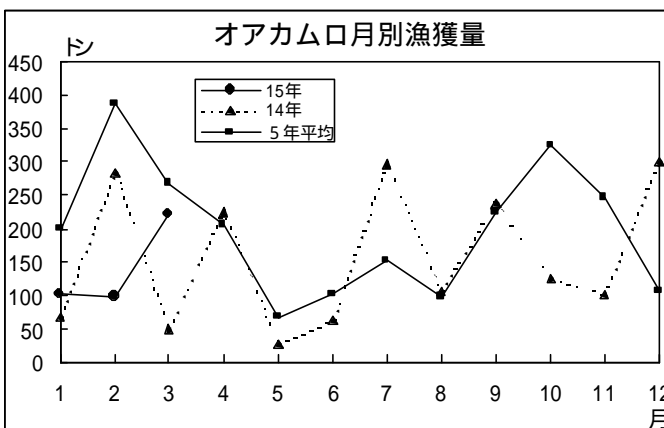


図 オアカム口漁獲量変化(4港計)

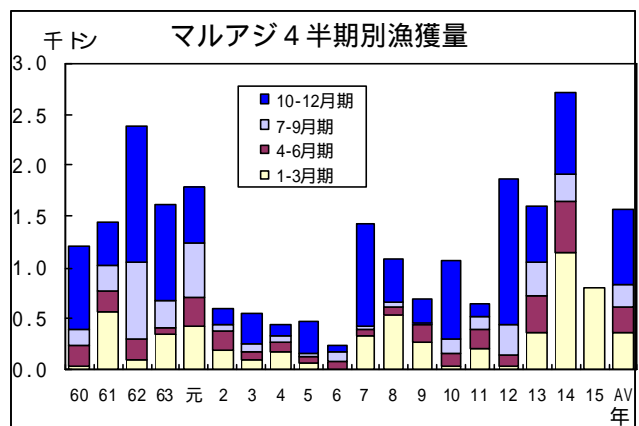
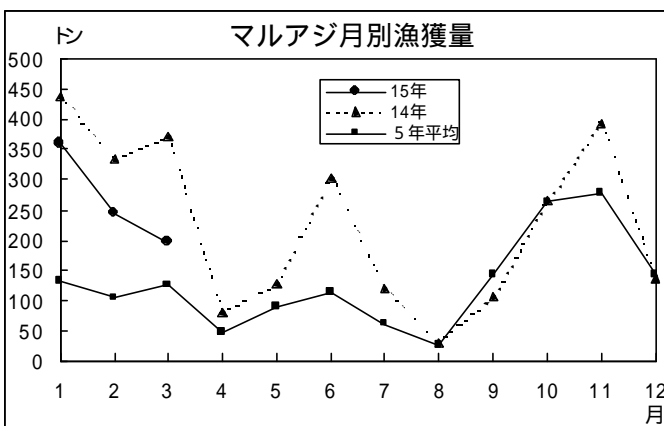


図 マルアジ(アオアジ)漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成10~14年)の平均値,平成15年3月末までの水揚量を使用。